



☆園小相互参観☆

5月に園職員が小学校を、7～8月には小学校職員がこども園を参観しました。「相互参観」という名称に変更したのは令和7年度からですが、令和3年度にはこども園への参観を開始し、令和4年度からは小学校への参観も開始しています。年数を重ねるにつれ、それぞれの職員の授業や保育の見方、捉え方が変化していることと、そこからの子どもの学びの見取りや見通しがもてるようになっていくことがうかがえます。単発ではなく、継続していくことの大切さを改めて実感しているところです。

小学校への参観

入学から約1か月後の子どもたちの姿を参観し、「アプローチカリキュラム」にある、※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点と「スタートカリキュラム」にある※3つの視点との「つながり」が感じられる事例を3つの視点について1つずつ紹介します。

※は令和7年度の事例集を参照してください。

知りたい!

「『カタツムリ』ってどんなだろうね?」と投げかけると、子どもたちが思い思いにカタツムリになって遊びだします。



面白い!

平仮名の学習で、ただ「1文字を読む」のではなく、あらかじめ描いておいたジグザグやグルグル、大小様々な●(黒丸)等の図を示し、その形に合わせて声の高さや大きさ、長さ等で「1文字を表現」します。図によっては体全体で表現する様子も見られ、それぞれの個性が表れ、表現が面白く、自然と笑顔が生まれ、友達同士でその楽しさを共有します。



家庭から持ってきた廃材を「形の似ている部分を見つけ、仲間分けをしよう」というめあての授業。子ども同士が自分たちで気づき、比べたり、話し合ったりしながら、活動を進めることができるよう環境を整え、十分な時間を確保します。



教えない!

4月3日の研修で、大阪府泉大津市立楠小学校の竹野教頭先生に、小学校現場での取組や実践(授業の導入の工夫や、子どもたちの安心感を生み出す工夫)を具体的に教えていただきました。早速その内容を取り入れて授業をしてくださっている様子を見せていただきました♪

今年度も参観者に「『10の姿』からつながった印象に残った子どもの姿や子どもの学び」と「指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮からの気づきや学び」について「参観シート」の記入をお願いしました。その内容を生成 AI でまとめました。

『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』
からつながる姿

- 安心して関わる力
- 友達と協力する力
- 自分で考えようとする力
- 文字や数に親しむ経験
- 言葉で伝え合う力
- 学びを楽しむ気持ち

以上が、小学校での授業や活動の中で、確かに生きていることが分かります。

指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮
からの気づきや学び

- 見通しがもてるようにすること
- 安心して挑戦できるようにすること
- 一人一人に応じて支えること
- 子どもが自分で気付くようにすること
- 楽しく学べるよう工夫すること
- 友達と認め合いながら学ぶ集団をつくること

以上を教師が大切にしていると整理できます。

こども園への参観

小学校の夏休み期間中に、小学校の先生方が子どもたちの遊びを参観し、「遊びを通した学び」を直に見て感じていただきました。また今年度は相互参観に西脇こども園の公開保育を位置付け、1年生担任に限らず、管理職、他学年の先生方にも多数ご参加いただきました。



全体会



☆公開保育を参観し特に参考になった点☆ （アンケートを基にした生成 AI によるまとめ）

一人一人の子どもの思いや興味を大切に、集団活動への参加が難しい子にも寄り添いながら、柔軟に活動を進めている姿が印象的でした。子どもたちの声や発想を受け止め、遊びや学びにつながる環境づくりや、材料・道具の準備にも細やかな工夫が見られました。また、「どうしたい？」「どうしたらいいかな？」と問いかけ、子ども自身が考えたり選んだりする場面が多くありました。保育者との信頼関係のもと、子どもたちが生き生きと活動し、友達同士で刺激を受けながら学びを深めている様子に、小学校教育にも生かしたい多くの学びがありました。

☆全体会でのグループワークにおいて、園小職員で保育について語り合った成果について☆

保育のねらいや先生方の思い、工夫について語り合うことで、子どもたちへの理解を深めることができました。参観の視点を共有して話し合ったことで、園と小学校のつながりについて考える、充実した時間となりました。

☆今後の取組について☆

今回の学びを生かし、子どもたちの興味や気づき、やってみたいという思いを大切に授業や学級づくりに取り組んでいきます。子どもが自分で考え、試し、表現できる環境や声かけを工夫するとともに、園での経験を小学校での学びにつなげ、安心して成長できるよう園と小学校の連携も深めていきます。